

SDGsの達成に向けた共創的 研究開発プログラム

(シナリオ創出フェーズ・ソリューション創出フェーズ)

令和 3 年度公募について

令和 3 年 4 月



科学技術振興機構

プログラム総括

戦略的創造研究推進事業(社会技術研究開発)

関 正雄



SOLVE for SDGs

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

- 明治大学 経営学部 特任教授
- 損害保険ジャパン株式会社
サステナビリティ推進部 シニア アドバイザー

今日お話しすること

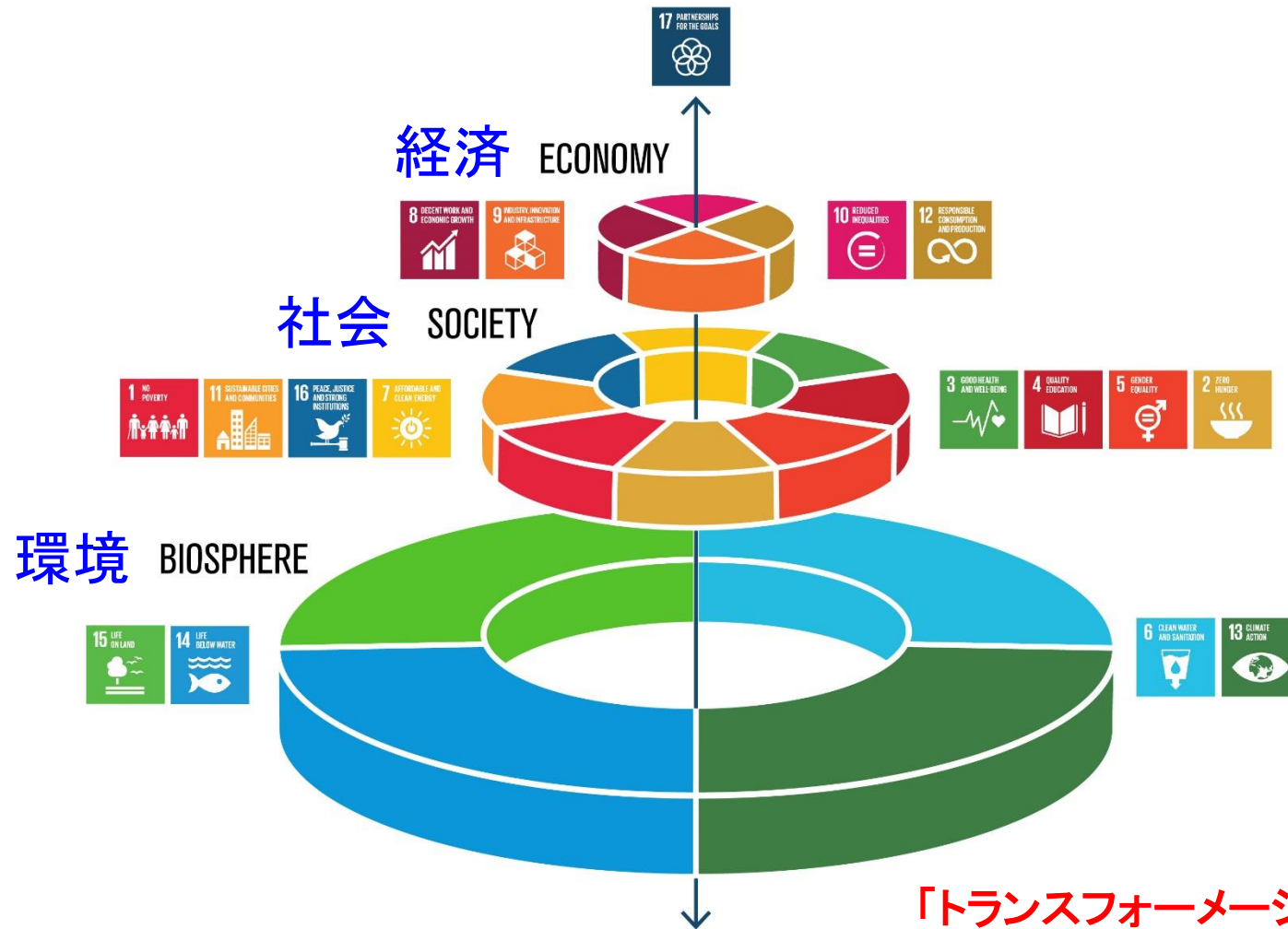
1. 今、世界で起きていること
2. 私たちがなすべきことは何か
3. 本プログラムが目指すもの

持続可能な開発目標(SDGs)

2016年～2030年までの間に達成すべき17の目標(ゴール)と
169の(具体的)ターゲット



SDGsのウェディング・ケーキ



「トランスフォーメーション(大変革)」"Transformation"
「誰一人置き去りにしない」"Leave No One Behind; LNOB"

source: Azote Images for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University

今、世界で起きていること

・ 迫られる「トランスフォーメーション」

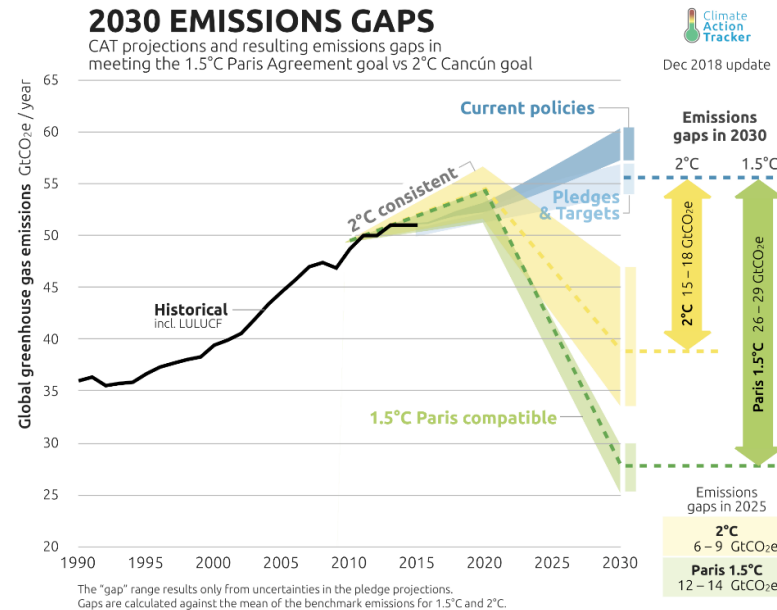
イノベーション（変革）を越えた、脱炭素社会への移行

気候変動・環境

スウェーデン議会前の
グレタ・トゥーンベリさん



出典：Wikipedia



自然災害・
防災

“社会を
レジリエントに”

気候科学に基づいて、政策、ルール、企業行動、ライフスタイル等々、システムチックな変化を起こすことが求められている。
気候変動への適応にも、より一層力を入れる必要がある。

今、世界で起きていること

・「誰一人置き去りにしない」

包摂的な経済成長、人間の尊厳を守る社会を実現

貧困・格差拡大

「26人と38億人」、「80%と1%」

出典：OXFAM “Public good or private wealth?” 2019.01
<https://www.oxfam.org/en/research/public-good-or-private-wealth>



すべての人に清潔な水を。WaterAid ウォーターエイドジャパン

出典：ウォーターエイドジャパンのホームページ <https://www.wateraid.org/jp/>

貧困には様々な側面があり、他の目標との関連性が重要。
気候変動の影響を最も受けるのは、脆弱な貧困層であることに留意。

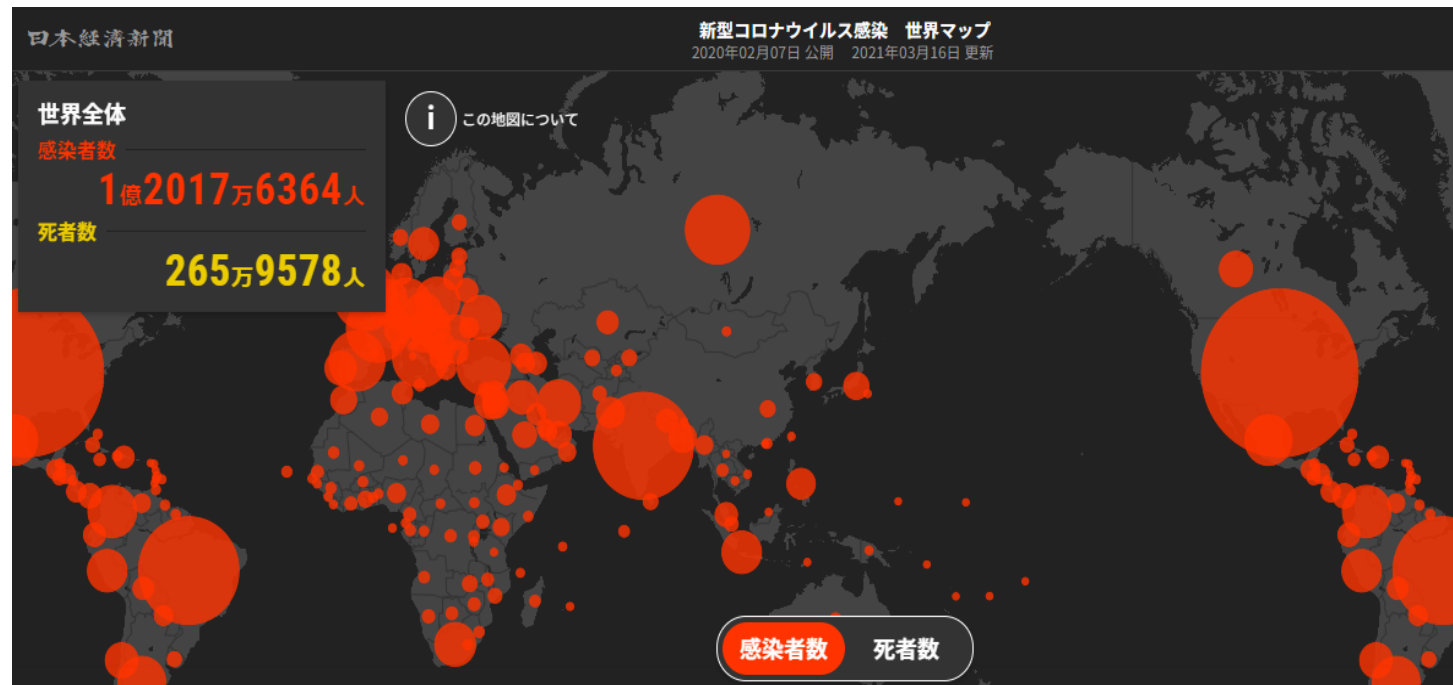
脆弱な人々
への着目
“ダウンスайд
リスク”

今、世界で起きていること

・「人間の安全保障」への取り組み

人間をとりまく脅威に、全てのアクターがともに立ち向かうこと

感染症・自然災害など



パンデミックによる生存脅威と経済危機

“新型コロナウイルス感染症の蔓延”

出典：日本経済新聞 新型コロナウイルス感染世界マップ（2021年3月16日現在）
<https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/coronavirus-world-map/>

- ・ グローバルパートナーシップの強化 - 感染症の蔓延を食い止め（対策措置、医療資材、治療薬・ワクチンの開発等）
- ・ レジリエントな仕組作り - 強靱なインフラ構築、有力な経済回復対策

コロナ禍とSDGs

- より良い再建を
(Build back better, build forward better)
- **グリーン**・リカバリー
- より**包摂的**で**強靱な社会**を
⇒ Great Reset, Redesign
⇒ Reinvention, Resilience, Regeneration

「2050年までに欧州大陸を世界初となるゼロエミッションの大陸にする」 (欧州グリーンディール：2019年12月)

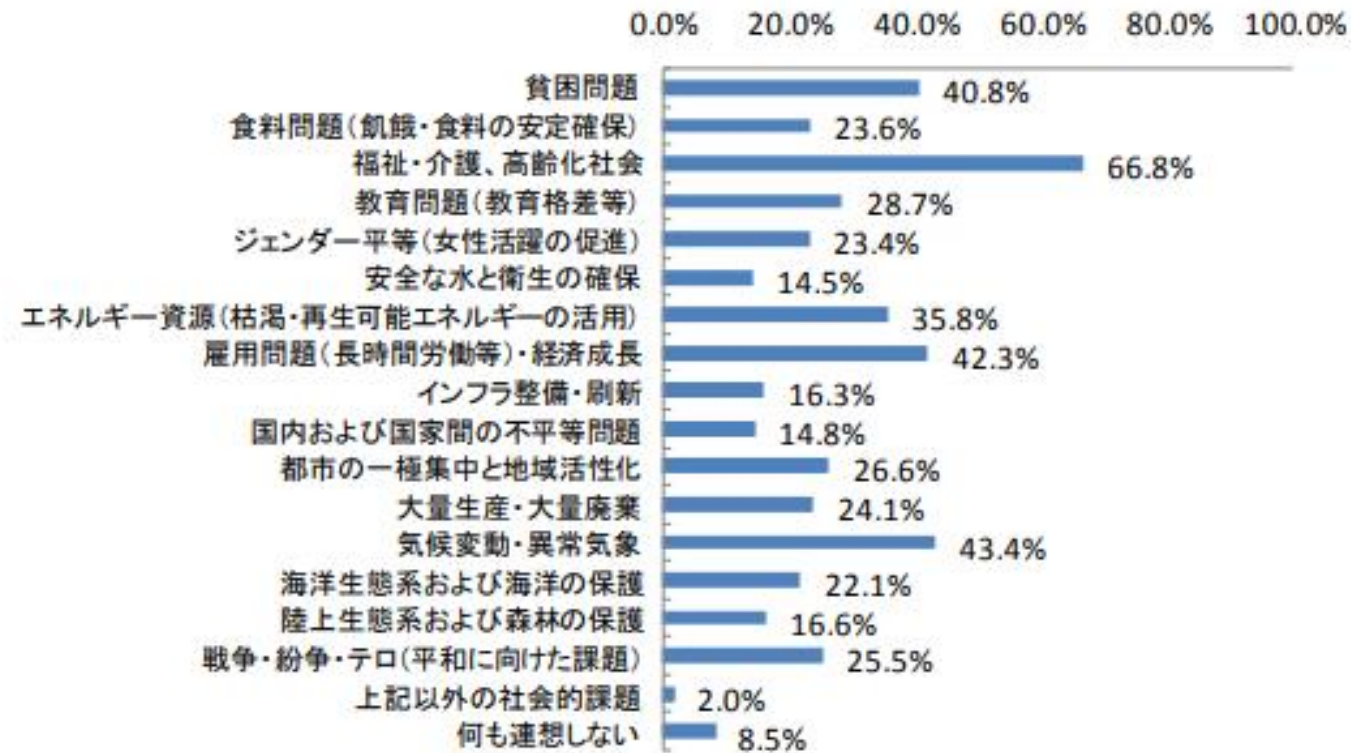
「10年間で1兆ユーロ (120兆円) の投資を行う」
(欧州委員会のフォン・デア・ライエン委員長)

⇒SDGsへの取り組みを加速することが必要



“課題先進国日本”

SDGs17目標の中で、国内の「社会的課題」と聞いて連想するもの（一般市民向けアンケート調査）



出典：「社会的課題・SDGs に関する意識調査」 損害保険ジャパン日本興亜株式会社（2019年8月）

私たちがなすべきこと

共通言語となったSDGsの視点で課題をとらえなおし、長期的な視野に立って、政府、学界、産業界、市民社会、消費者、労働界、メディアなどが、知恵と行動力を結集し、グローバルな課題、ローカルな課題を解決していく。

- ・ STI（科学技術イノベーション）を有効な手立てとして活用する
- ・ 科学技術を人と社会の未来のために用いて、課題解決力とする
- ・ 革新的なデジタル技術AI、IoT、ビッグデータ、5G、ロボティクス、ドローン、ブロックチェーンなどの活用も

“Society 5.0”

- ・第5期科学技術基本計画で掲げられた、日本の新しい成長モデル
- ・デジタル技術も活用した、人間中心の超スマート社会



出典：内閣府ウェブサイト https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html

Keidanren
Policy & Action

水質、森林、土地劣化、生物多様性などのモニタリングおよびマネジメントに、**リモートセンシング・データ**や、**海洋観測データ**を活用

13 気候変動に
具体的な対策を



12 つくる責任
つかう責任



11 住まい
のステーション

10 人や国の不平等をなくそう

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

8 働きがいも
経済成長も

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



5 ジェンダー平等を
実現しよう

4 質の高い
みんなに

3 すべての人に
健康と福祉を

IoT、AI
スマート
最先端のバ
されたスマ

成長モデル
の

出典：経団連ウェブサイト <https://www.keidanren.or.jp/policy/cgcb/2017shiryo2.pdf> 法人

本プログラムが目指すもの(1)

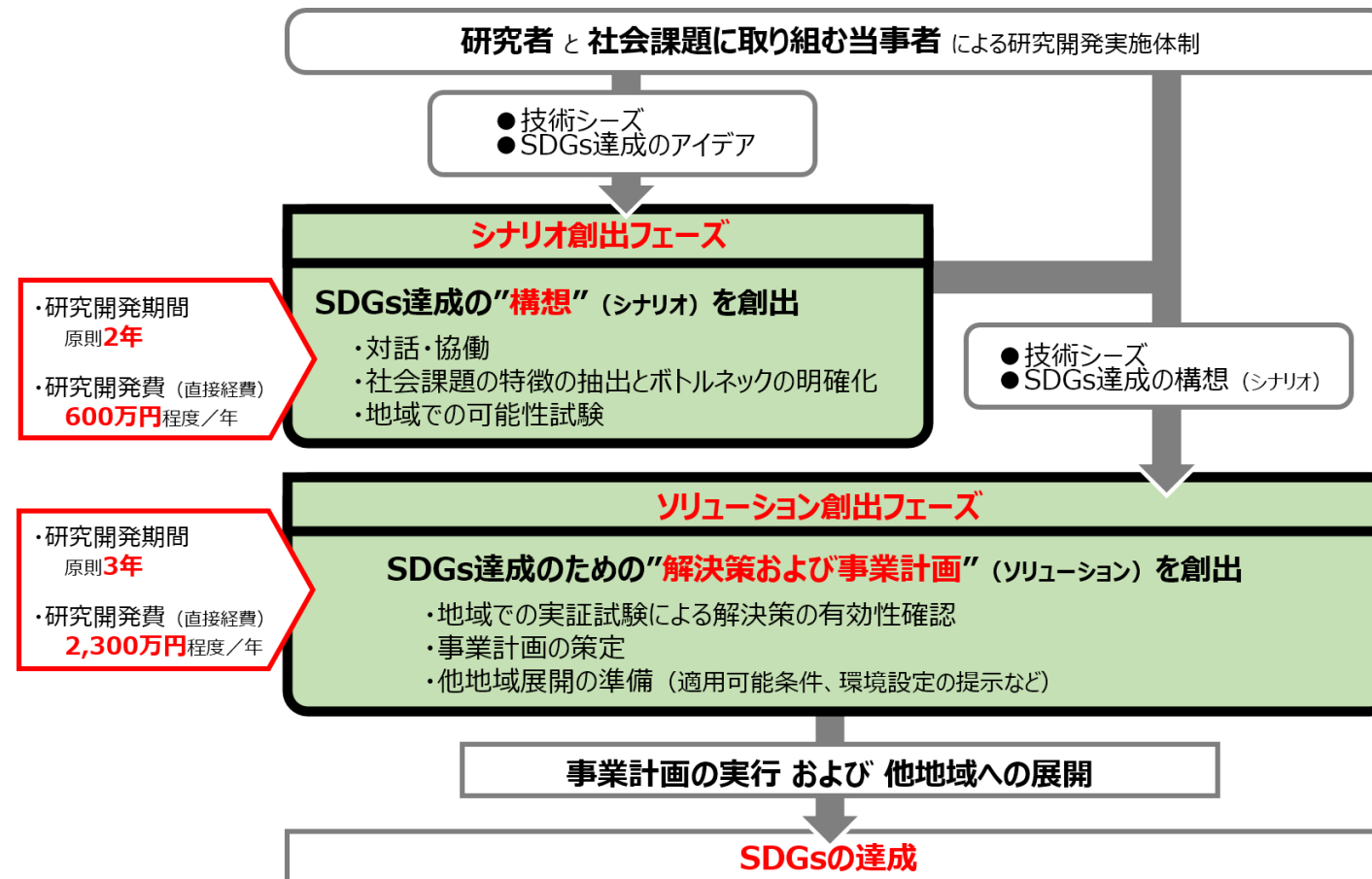
プログラムの目標

STIを活用して**特定の地域における社会課題を解決し、その成果を事業計画にまでまとめ上げ、国内外の他地域に展開可能なソリューションとして提示**すること。

- 外部環境や科学的知見を起点とする、“**Outside-in**”
- 目標から逆算してなすべき事を考える、“**Backcasting**”
- 技術ドリブンではなく技術シーズを基盤とした、“**ソリューション・ドリブン**”
- SDGs各目標間の相互関連や**トレードオフ、シナジー**に留意

本プログラムが目指すもの(2)

- ・ マルチステークホルダー共創によるプログラム推進
- ・ 研究者（研究代表者）と社会課題に取り組む当事者（協働実施者）と一緒に研究開発を推進



本プログラムが目指すもの(3)

- ・ プログラム総括・プログラム総括補佐・プログラムアドバイザーらによる機動的なハンズオン・マネジメントを行います。
- ・ 社会的インパクトがあり、意味のある変化を起こすためのさまざまなシナリオ創出、ソリューションを創出することを支援します。

プログラム総括

関 正雄

明治大学 経営学部 特任教授

損害保険ジャパン株式会社 サステナビリティ推進部

シニア アドバイザー

プログラム総括補佐 川北 秀人

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所] 代表

奈良 由美子

放送大学 教養学部 教授

本プログラムが目指すもの(3)

プログラムアドバイザー

(令和3年4月1日現在)

浅田 稔 (大阪国際工科専門職大学 副学長／大阪大学先導的
学際研究機構共生知能システム研究センター 特任教授)

岩田 孝仁 (静岡大学防災総合センター 特任教授)

窪田 順平 (大学共同利用機関法人人間文化研究機構 理事)

河野 康子 (一般財団法人日本消費者協会 理事)

田中 泰義 (毎日新聞編集編成局くらし医療部 部長
／日本環境ジャーナリストの会 理事)

本プログラムが目指すもの(3)

(続き)

長澤 恵美子 (一般社団法人日本経済団体連合会SDGs本部 統括主幹)

萩原 なつ子 (立教大学社会学部 教授／21世紀社会デザイン
研究科教授／NPO法人日本NPOセンター 代表理事)

平田 直 (国立研究開発法人防災科学技術研究所 参与・首都圏
レジリエンス研究推進センター長／東京大学 名誉教授)

藤江 幸一 (千葉大学 理事)

山内 幸治 (NPO法人ETIC. 理事／事業統括ディレクター)

善本 哲夫 (立命館大学経営学部 教授)

SDGsの達成に向けた共創的 研究開発プログラム

(シナリオ創出フェーズ・ソリューション創出フェーズ)

令和 3 年度公募について（補足説明）

令和 3 年 4 月



科学技術振興機構

プログラムの概要（補足説明）

プログラムの目標

STI（科学技術イノベーション）を活用して
特定の地域における社会課題を解決し、
その成果を事業計画にまでまとめ上げ、
国内外の他地域に展開可能なソリューションとして提示すること。



STIを活用して、
特定の地域における社会課題を解決



事業計画にまでまとめ上げ



国内外の他地域に展開可能な
ソリューションとして提示

研究開発が終了した後のビジョン

- ・創出されたソリューションを成果の担い手が引き継ぎ、特定地域への定着を図る。
- ・海外を含め他地域へ展開する活動を通じて地域レベルでの実績を積み重ね、SDGsの達成につなげる。



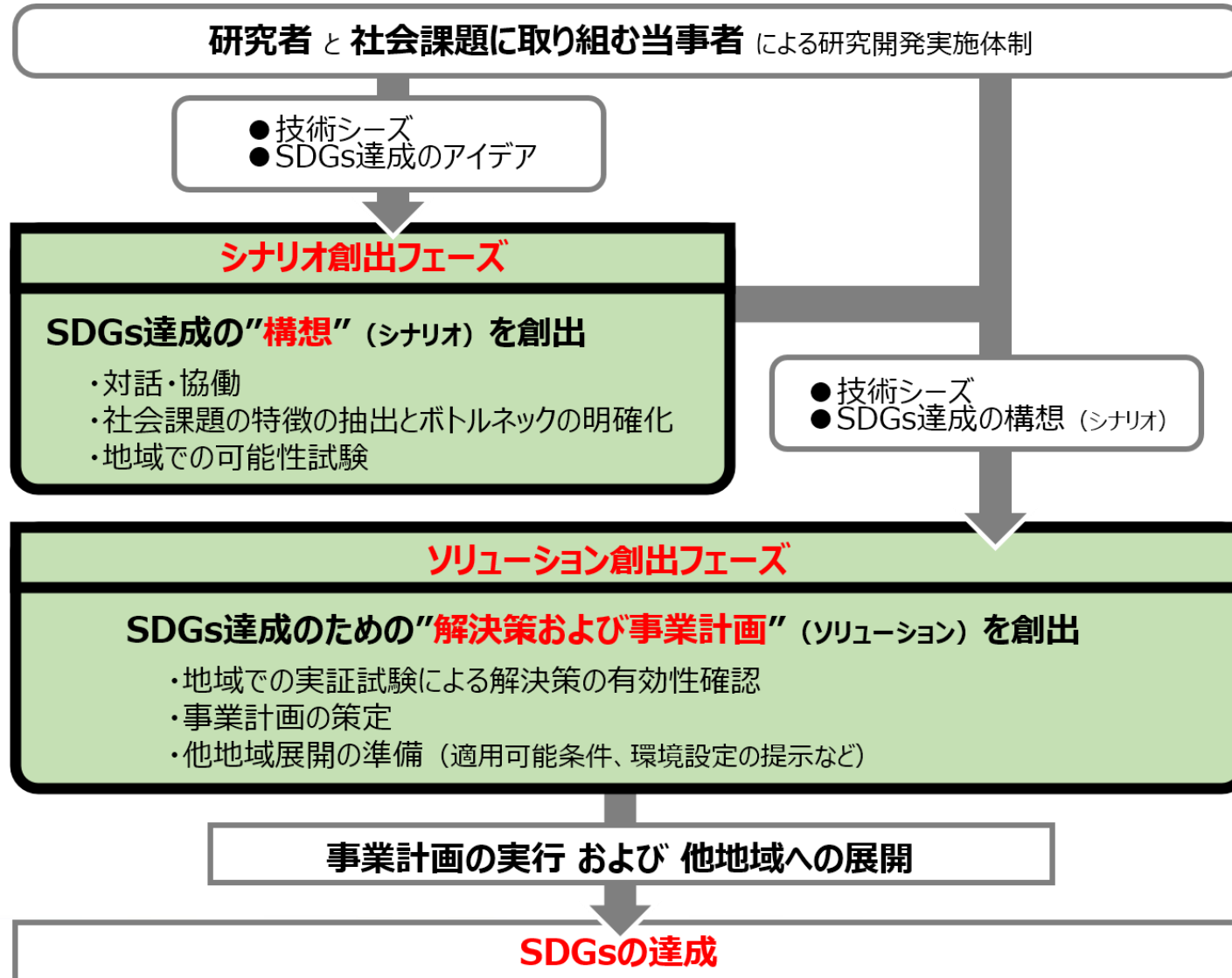
創出されたソリューションを成果の担い手が引き継ぎ、特定地域への定着を図る



海外を含め他地域へ展開する活動を通じて地域レベルでの実績を積み重ね、SDGsの達成につなげる

プログラムのしくみ

- ・ マルチステークホルダー共創によるプログラム推進
- ・ 研究者と社会課題に取り組む当事者が一緒に研究開発を実施



シナリオ創出フェーズ

<研究開発費>

(採択予定件数：4件程度)

- ・研究開発期間

原則 **2年**

- ・研究開発費（直接経費）

年間**600万円**程度

ソリューション創出フェーズ

<研究開発費>

(採択予定件数：4件程度)

- ・研究開発期間

原則 **3年**

- ・研究開発費（直接経費）

年間**2,300万円**程度

プログラムのしくみ

申請段階



技術シーズ
シナリオ

シナリオ創出フェーズ



技術シーズ
シナリオ

ソリューション創出フェーズ



SOLVE提案対象となる要件等

■ 提案者要件

- ・**研究代表者**（研究開発（自然科学、人文学、社会科学）の責任者）
- ・**協働実施者**（社会課題に取り組む当事者の代表）
 - ※どちらか一方は所属機関が大学等
 - ※国内の実施機関（民間企業、各種団体、NPO、大学、研究機関等）



■ 技術シーズ要件

- ・既に可能性試験が出来る段階の**技術シーズ**がある
 - ※ソフトウェア、機器類の商品化、企業化のみを追求する活動は対象外
 - ※技術シーズの研究開発そのものは支援対象外

■ 支援対象

- ・支援対象は、**現実の社会課題を解決するための取り組み**自体
 - 例：技術シーズを地域で実証試験し有効性を確認し、社会課題解決のための下記のような取り組み
 - システム等の導入普及展開
 - 地域合意形成の仕組みの構築
 - 人材育成システム等の構築
 - ネットワーク形成や協議会等の展開 等



■ アウトプット

- ・目的は**地域における社会課題に対するソリューション創出**

プロジェクトチーム

■ 研究代表者

他分野の研究者、現場を熟知した人、受益者、行政の関係者等々、多様な人々の協力を得て進める



研究実施者



■ 協働実施者

社会課題に直面し、研究者と協力して課題解決することを希望する団体・組織を実質的に代表して社会課題に実際に取り組む人（≠役職の代表者）



研究実施者

研究代表者と協働実施者の二人が中心となってプロジェクトを推進。
自然科学および人文学/社会科学の研究者、および創出されるソリューションの受け取り手となりうる協働実施者らによる体制を編成頂く。

【公募要領 p90からのQ&Aもご参照ください】

■ フェーズ共通

- （1） 解決すべき**具体的社会課題**、**2030年までに目指すべき姿**が明確か？
- （4） 各ステークホルダー参画の上で**KPIが設定・共有されPDCA**が考慮されているか？
- （6） P J に関する**各ステークホルダーの現状**が的確に分析されているか？
- （10） P J 終了後も成果の**担い手自らが社会課題への取り組みを継続する体制**になっているか？

■ シナリオ創出フェーズ

- （3） 対話・協働を行う**ステークホルダーによるネットワークの構築と活動状況**が示されているか？
- （4） 技術シーズ、解決のための**アプローチや手法のアイデア**について具体的かつ有効か？
- （6） 具体的な**マイルストーン**を考慮した**研究開発計画**か？

■ ソリューション創出フェーズ

- （1） 実現すべき**ビジョン**と、**実現によって創造される価値**、**その為のシナリオ**が明確か？
社会課題解決の**道筋**が論理的かつ現実的か？
- （4） 「**コーディネーター**」「**解決策を定着させる担い手**」「**他地域展開への担い手**」が明確か？
- （6） メリットを受ける人々が特定され、その効果が明確であるか？
他地域等への展開可能性が具体的か？

選考スケジュール

提案書受付期限（※）	6月8日（火） 正午 ※府省共通研究開発管理システム（e-Rad）での受付期限日時
書類選考期間	6～7月（予定）
書類選考の結果通知	面接選考会の1週間前までに連絡（予定）
面接選考会	シナリオ創出フェーズ： 8月27日（金） ソリューション創出フェーズ： 8月24日（火）
総括面談 （採択条件の説明）	9月6日（月）・7日（火）
選考結果の通知・発表	10月（予定）
研究開発の開始	10月（予定）

最新の情報は提案募集ウェブサイトをご参照ください。

https://www.jst.go.jp/ristex/proposal/proposal_2021.html



SOLVE for SDGs

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム

みなさまのご応募をお待ちしています

提案〆切：2021年6月8日（火）正午

問い合わせ先：boshusolve@jst.go.jp

SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム 公募担当
（科学技術振興機構 社会技術研究開発センター／「科学と社会」推進部）